成東高校同窓会報

第2号
2011年12月1日
発　行
成東九十九同窓会
編集責任者
畑戸輝夫(昭26年)
印　刷　㈱サラト

漫画家　立原あゆみ氏作品「一年夏」　ペンネーム 立原あゆみ氏より寄贈（本名 市川洋一氏　昭40年卒）

桜の花の下で

同窓会長
清水新次
(昭38年)

寒さが日を追って厳しくなりつつありますが、成東九十九同窓会員の皆様お元気ですか。

昨年度は、母校創立百十周年に当たり、多くの会員の方々の御協力、御支援により、記念式典の開催や夜間照明燈の設置、記念グッズの制作・販売、そして同窓会報創刊号の発行など、様々な記念事業を実施することができました。この紙面をお借りし、深く感謝申し上げます。

記念事業の一つとして予定していた本校唯一の歴史的建造物である旧武道館の改修は、残念ながら寄附金が目標額に到達しませんでした。今後、さらに目標達成に向けて努力してまいりますので、会員の皆様からの御寄附や記念グッズの購入など、御協力をお願い致します。

本年三月十一日に発生した東日本大震災（原発事故）は、東北三県を中心に千葉県にも未曾有の大災害をもたらしました。

幸いにも母校にはほとんど被害が無かったようですが、卒業生名簿によりますと、被災地域にお住まいの会員もいらっしゃるようです。被災された方々の辛苦は筆舌に尽くせるものではないと思いますが、一日も早い復旧・復興を心からお祈り致します。

先の大震災は、あまり被害を受けなかった私達の心にも多くのものを残しました。

自然大災害を前にした人間の無力さ、はかなさ、究極の苦難に遭遇した時において守るべき本当に大切なものは何か、そして、困難に立ち向かう人間の強さ、人々や地域などによる連帯感や絆の大切さなどです。

大震災から二か月以上経った頃、未だ瓦礫の連なる被災地域で一本の桜が花を咲かせ、その下で笑顔で集う被災者の方々をテレビが映し出していました。その笑顔の奥に、深い悲しみ・不安、復興に向けての強い決意、互いの絆の強さを見たのは、私だけではなかったと思います。

大津波にも負けず、命を燃やすように咲くその桜の凛とした姿に、不思議な力を感じました。

私達の母校の庭にも、樹齢百年近い老木をはじめ成高パワーに満ちた九十九本の桜があります。毎年春には見事な花を咲かせます。会員の皆様も、瞼を閉じれば、入学式や卒業式の記憶、淡い初恋やほろ苦い失恋の思い出、恩師や友との熱い語らいなどが、校庭の満開の桜とともに心に湧き上がってくるのではないでしょうか。

昨年度から、母校の桜を観賞できるイベント「観櫻會」を開催してきました。しかし今年度は寒波で開花時期が遅れたこと、大震災の直後ということもあり、自粛致しました。

来年の四月には「観櫻會」の開催を予定しています。「観櫻會」の概略を、この「同窓会報」の二ページ目に囲み記事で示しました。九十九本の満開の桜の花の下で、多くの会員の皆様が出合い、会員相互の友情、連帯感や絆などをさらに深め、成高パワーを得て明日を明るく元気に生きてゆくための糧の一つにしていただくことを願っています。

会員の皆様の今後ますますの御健勝、御活躍を心からお祈り致します。

学校規模

クラス数	24クラス（各学年8クラス）
生徒数	合計979名
男子	521名(53.2%)
女子	458名(46.8%)
卒業者数	
合計	27,390名
旧制中学校卒	4,620名
併設中学校卒	545名
新制高等学校卒	22,225名

（平成23年3月31日現在）

創立百十周年記念事業報告

母校成東高校の創立百十周年記念式典が、平成二十二年十一月十三日（土）に懐かしき九十九ヶ丘の第一体育館において盛大に挙行されました。（思えば、この「新体育館」も創立八十周年記念事業の一環として建設されたものですから、それ以来でもすでに三十年の月日が流れたことになります。）

開式の辞、国歌斉唱に続き、内藤光雄校長の式辞、そして清水新次実行委員長からは挨拶、そして現役生徒に向かっての力強いエールの言葉が贈られました。また、これまで母校発展のためにご尽力いただきました清水新次実行委員長・嘉瀬尚敏前同窓会会長、また菅野捷壽・長谷川實・平野幸久の歴代校長に感謝状が贈呈され、続いて来賓として県知事・県教育委員会・後援会会長の椎名千収山武市長よりの祝辞など、厳粛なうちにも心温まるお言葉の数々に、一同百十年分の感激を新たにした次第です。

式典に引き続いては記念講演が行われました。千葉大学大学院精神医学教授の伊豫雅臣氏（昭52年卒）により、「不安な心を克服するために――認知行動療法の応用」という演題でお話を伺いました。

ご自身の高校時代の経験などを交えつつ、不安に満ちた現代という時代と社会状況の中で、心を萎えさせることなく生きていくためにどうすればよいのかを分かりやすく解説していただいた経験は、同様の不安に日々さらされ続けていると言っても過言ではない現役生徒にとって、大きな刺激となったことと思います。

続いて、場所を第二体育館に移しての記念祝賀会。当日のアトラクションとしては本校吹奏楽部とOBの伴奏で、東京佼成ウィンドオーケストラのトランペット奏者林和雄氏（昭44年卒）、オーボエ奏者海上なぎさ氏（平11年卒）のお二人によって、格調高く金管楽器の演奏が行われました。

また、同会場の入り口付近では校歌・応援歌の記念CDや、市川洋一氏（＝漫画家・立原あゆみ氏、昭40年卒）による額入りイラスト、しおり、クリアファイル、カレンダー等、また宮負一昭氏（昭43年卒）の揮毫による「百難千苦をしのがずば」の扇子、そして「成東高校櫻マップ」等の記念グッズの販売が行われ大いに賑わいました。（おかげさまで記念グッズは極めて好評で、発売即完売というような勢いだったと聞き及びますが、一部の品につきましては若干の残部がありますので、インターネット等でご確認の上ご注文いただければ幸いです。）

ちなみに、創立百十周年を記念して、記念館周辺・旧武道館周辺に七基の街路灯（通称「ガス灯」）が設置されました。足元の石盤に刻まれているのは以下の方々のお名前です）。

・山武市役所九十九会 様
・千葉市役所九十九会 様
・九陵会（高校管理職等）様
・高9昭32 大高和郎 様
・高15昭38 清水新次 様
・高21昭44 第30代 櫻守 様

多大のご援助に感謝申し上げますとともに、これらのともし火が九十九ヶ丘で学びあう生徒たちをいつまでも照らし導く、闇夜の灯台のようなものであったら幸いです。

観櫻會のお知らせ

主催 成東高校観桜会実行委員会
後援 成東九十九同窓会
成東高校PTA
県立成東高等学校
期日 平成24年4月7日（土）

百周年記念館前庭にて、二十種、九十九本の桜が、同窓生の皆さんのお越しをお待ちしております。なお、詳細は成東高校のHPをごらんください。

東京九十九同窓会開催報告

里見 勇（高16回卒）

講演

懇談

首都圏在住・在勤の成東高校同窓生の集いである「東京九十九同窓会」が、今年も開催されました。開催日は九月十六日（金）、場所は丸の内の歴史的建造物である日本工業倶楽部です。

席上、まず、新会長の市東明義氏（高15回卒）に、会長就任に至った経緯の説明を含めたあいさつをいただきました。

続いて講演と懇親会です。この集いは同窓生による講演と懇親会の二部構成ですが、今年は講演として、横浜の八景島シーパラダイスを計画段階から主導し、現在同社社長を務めておられる高校20回（昭42年度）卒の布留川信行氏にお願いしました。因みに、昨年は元中日ドラゴンズ投手の鈴木孝政氏（高25回卒）でした。

さて、「夢と希望を人々に提供する仕事を創り育てて」と題する布留川氏の講演では、同社が目指す社会的な役割をどのような形で具現化してきたか、東日本大震災に遭遇して企業の危機管理と社会的責任をどのように果たしていくか、経営者の立場から貴重なお話をいただきました。

講演に続いて、場所を隣に移して懇親会を開催しました。前会長の松戸猛氏（高5回卒）の音頭による乾杯から始まった歓談では、各テーブル毎に故郷の話題や仕事の話題等に花が咲いておりました。結びに校歌を斉唱してエールを送り、お開きとなりました。

東京九十九同窓会は、九十九に因み、例年九月十九日に開催しております。今年は同月十六日の開催でしたが、来年は本来の九月十九日（水）に日本工業倶楽部で開催の予定です。

同期の集まりにもこの機会を利用してはいかがでしょうか。都内及び東京近郊にお住まいの卒業生で案内の届いていない方は、幹事の椎名康雄氏（高28回卒）に連絡していただければ、詳細を御案内いたします。

椎名氏の連絡先は、電話・ファクシミリとも、〇三（六二一九）五七三七です。

第106回

九十九同窓会定期総会報告

成東九十九同窓会第百六回定期総会が本年八月七日、母校百周年記念館で行われた。

議事は以下のとおりである。

○会務報告

二十二年八月一日　同窓会百五回総会
同　九月十六日　東京九十九同窓会
同　十一月十三日　百十周年記念式典
二十三年一月十二日　千葉県庁九十九会
同　二月二十四日　同窓会大平支部
同　三月九日　卒業式
同　五月二十日　千葉市役所九十九懇親会

○会計・監査報告

○役員改選

新役員

【会　長】清水新次（高15）
【副会長】谷本　篤（高13）
【副会長】市東明義（高15）
【副会長】眞壁　力（高19）
【副会長】前嶋康夫（高24）
【副会長】武居元三（校長）
【幹　事】里見　勇（高16）
【幹　事】内藤光雄（高21）
【監　事】西川泰雄（高11）
【監　事】岡村新吉（高11）
【顧　問】嘉瀬尚敏（高2）
【教　頭】上代真澄（高28）
【教　頭】小西則子
【事務長】糸久良夫

○同窓会会報について

○百周年記念事業について

○講演

村岡清明氏（高21　昭44年卒）
「こんなに恐い介護施設の現実」
林　和雄氏（高21　昭44年卒）
「旅と音楽」講演とトランペット演奏

村岡清明氏は筆名の本岡類で広く知られる小説家。ご自身の体験からヘルパー2級の資格を取得しての介護体験をつづった『介護現場は、なぜ辛いのか――特養老人ホームの終わらない日常』（新潮社刊）は近年のベストセラーとなった。日本の介護現場の実態をここまで詳細に紹介したものは無いとまで言われたのがこの本であり、その著者による赤裸々な報告に、会場は嵐の夜の裸電球のごとく、暗くなったり明るくなったりしたのである。

一方、林氏（東京佼正ウィンドオーケストラ）は世界各地への旅をめぐる肩の凝らない珍談奇談。トランペットの演奏には海上なぎささん（高51）が今回はピアノの伴奏者として特別参加した。（当日の講演の内容は、梗概として本紙の3～4ページに掲載した。）

午後は会場を成東の「米作」に移して懇親会が行われ、会の途中で、富塚武邦氏（高15）に対し百十周年記念グッズ製作協力（『櫻ガイドブック』）の功労に対して感謝状が贈呈された。その後も同期の旧交を温め、同窓の輪を広げて、懐かしい歓談のうちに時は推移したのであった。

（九十九同窓会総会の案内は役員等のほか、その年に60歳を迎える卒業生の全員に差し上げている。ちなみに本年八月の「還暦参加者」は二十余人であった。人生を振り返る節目の年に、かつての卒業生が、故郷を目指すツバメのようにもう一度九十九ヶ丘に帰ってくる。それが毎年の恒例のようになればすばらしいと思う。）

講演　林　和雄氏（高21回）

旅と音楽

はじめまして、林です。こういう商売をやってますと、ツアーで海外を回ることがありますので、そのときの話をしようかと思います。

25年くらい前ですか、初めてヨーロッパに行きました。飛行機が着陸するときに、窓から牧場、それから牛とか馬とか羊とかが見えるんですね。それにすごく感動しました。

でも、イギリスは食べ物がメチャクチャにまずいです。ステーキとかが出るんですけど、塩が、高血圧の人にとっては致死量が入ってます。私の友達が1年くらいイギリスにいて、それまでダイエットにはいつでも失敗していたのに、帰って来たら12～3キロは痩せていました。ですからダイエットしたい人には、ぜひともイギリスがお勧めです。では聴いてください、「**イエスタデー**」。

スイスというと平和なイメージがありますが、あそこは国民皆兵。つまり国民一人一人がみんな兵隊なんですよ。だから天気のいい日に散歩してますと、近所のおばさんが公園でパンパンと射撃練習をしています。年に一回か二回、それをしなければいけないらしいんです。食糧も今年できたものは貯蔵するんですよ。食べるのは去年できたもの。

スイスの料理はコースで来るんだけれど、前菜だけでもメチャクチャあって、主菜とデザートまでいく人はそうそういません。それから、スイスは物価が高いんです。ビールは安いんですけれどね。だからスイスでアルバイトに学生を一日雇うと5万円くらいかかります。

オーストリアは音楽の都ウィーンの旧市街、ここは夏になると多くの観光客が訪れます。ただし、そういう客を狙った泥棒もまた多いんです。向こうに目をつけられたら、いくら気をつけても絶対に盗られます。ですから私たちにできるのは、盗られてもいいものだけを持って出るようにすることだけです。ではまた演奏にいきます。曲は「**アメージンググレース**」です。

ちょうど一年くらい前に、トルコに行きました。乗換えでイスタンブールに降りて、みんなはそこから帰ったんですが、私ひとりが残ったのです。地下宮殿とか、ボスポラス海峡のところにはブルーモスクとかがあって、そこに行きました。夜は飲みに行くんですけど、店までタクシーで2時間半くらいかかりました。どうにかこうにか飲み屋に着いたら、店が100軒くらい集まっていて、まるで竜宮城。イスラムですからお酒はダメな国なんですけれど、そこだけはいいんですね。

ヨーロッパは肉ばっかり。朝昼晩、パン・トマト・チーズで全部一緒。そんな暮らしを2週間して、トルコに着くと魚が豊富なんです。ところが食べてみると、何の魚か分からないし、全部ネチョネチョ。では、次は「**ダニーボーイ**」。

最後に台湾の話をしたいと思います。ビール工場に飲みに行ったら、蚊がいます。アルコール飲んでるから、蚊が5、6匹ブンブンいってるのに、向こうの人は全然気にしません。すごいなと思いましたね。それから、とってもいい店は別ですけれど、普通の店は勘定が1、000円くらい。2、000円とかかったことはないですね。

【講師紹介】

林　和雄氏　トランペット奏者
昭和44年卒　高21回
昭和49年、東京音楽大学器楽科を卒業し、同年、東京佼成ウィンドオーケストラに入団。東京ブラス・ソサイエティーのコンサートマスター、聖徳大学講師をつとめ、レコーディングは300タイトルを越える。

講演　村岡　清明 氏（高21回）

こんなに恐い「介護施設の現実」

ご紹介いただきました村岡です。長くミステリーを書いておりましたが、いささか限界を感じて、しばらく普通の小説を書いたりもしました。その中では『夏の魔法』というのがけっこう評判がよく、私立や県立の高校入試の国語の問題に取り上げられたりもして、私としては驚いたり、不思議な気がしたりしています。最近はノンフィクションの本を書いております。日本の高齢社会というのが現在の私のテーマになっておりますので、今日は「介護」の話をしたいと思います。

なぜ私が介護の分野に入り込んでしまったかといいますと、一九九九年の十一月に私の母親が脳溢血で倒れました。成東病院に入院したのですが、小脳出血で歩けない、しゃべれない、僕のこともよく分からないという状態でした。小脳の一部が出血するだけでこんなに変わってしまうんだと驚きましたが、退院してから十一年、リハビリを続けているうちに、今では自分のことはきちんと自分でできます。家の庭をツエ無しで歩けるほど、かなり普通の状態に戻っていますから、人間の生命力、再生力というのはすごいものだと感じますね。とはいえ週に六日はヘルパーさんに来てもらっています。毎日うちの父親とヘルパーさんが介護し、あとは子供たちが時々訪れて介護を続けております。

ところが現在、その介護業界も、介護職員そのものについても評判がよろしくない。施設で認知症の老人を殺してしまったというような事件が起こり、ろくでもない話ばかりでいい話は少ない。まあ、ゴチャゴチャの世界だというのを話に聞いたり新聞で読んだりしておりましたので、もう少し詳しく調べてみようかなどと思っていたところ、新聞にチラシが入っていて、そこに「ヘルパー2級、取りませんか」とあったのです。ちょっと受講してみたら、受講してみて中の事情を知ったなら、もう少し別の面が見えてくるのかもしれないと考えて、柏のヘルパースクールに入りました。

ヘルパー2級を取るためには、週に2回の研修があって、4週間通います。そのあとで、介護施設での実習を4～5日受けます。この介護実習で最初に行ったのが認知症の介護病棟。千葉県の北西部にある大きな病院でしたが、本当にこんなことあるのかなというぐらいにすごい。

ひどい臭いがします。ギャーという叫び声もします。あちこちで縛られています。今の日本の介護の現場で、あちこちで人間が縛られているなんて現状があるのかと、私はわが目を疑いましたね。また、その縛られ方も尋常ではない。実習生全員が言葉をのみました。

認知症が進んでいますからオムツを使っている方が多い。ではそのオムツ交換はどこでするのか。普通だったら個室ですよね。ところが、廊下です。男も女もない、廊下に並べていっぺんにオムツ交換です。国が法律ではっきり定めてある施設でありながら、ここまでひどいことが行われている。

こういう所の生活を実際に見たら、そこで終わりにするつもりでした。でも私もジャーナリストでしたから、表に出てこないこれだけひどい話があるのなら、やっぱり中に入って、もう少し調べなければいけないだろうと思いました。そしてどうせ調べるなら、日本で最もポピュラーな介護施設である特別養護老人ホームで働いてみるのが一番よく分かるだろうと思ったのです。

そこで私は近くにある特養（特別養護老人ホーム）に行き、雇ってくれないかと頼むと、当時はまだリーマン・ショック以前で、ちょっとばかり景気がよかったためか人手が足りない。57歳になってはいたけれど、週に2回来てくださいということで採用が決まり、そこで週に2日、5ケ月間、介護職員として働きました。

そこで得たものは多かったですね。皆さんの中で親御さんのいらっしゃる方は、いつか特養に見舞いに行くことになるかもしれません。しかし、そのお見舞いのときに見た姿と、中で働いたときに見た姿というのは、全く違います。本当に、恐ろしいほど違う。

僕は特養老人ホームとはいっても、暇なときは車椅子であたりを散歩ぐらいできるんだろうと思っていたのです。ところが、全くそんなものではない。びっくりしたのは、フロアごとにしっかりカギがかかっているんですよね。エレベーターは暗証番号のボタンを押して初めて動く。つまり、一度入ってしまったら、自分の意志では出られないのです。これは、おそらくすべての特養老人ホームでそうだと思うのですが、その人間の自由を奪う恐ろしさというものにはショックを受けました。

では、なぜカギをかけるのでしょうか。これは、認知症の方が外に出て行ってしまう、だから逃げ出さないようにするためだと言われているのですが、でも、中には認知症でない方もたくさんいる。そういう方も十把ひとからげにされてしまう、これがほとんどの日本の特養の姿です。

二番目に驚いたのは、中で働いている介護職員が荒れている。なぜ荒れているのかというと、圧倒的に働いている人の数が少ないんですよ。部屋はいっぱいで、次から次へとオムツ交換をして、食事を食べさせて、お風呂に入れて……。それを、入所している高齢者たちが素直にうなずいてやってくれるのなら職員もやりやすいのですが、そうはいきません。

引っ掻かれるは殴られるは、そんなことが毎日のように起こる。それに耐えるしかない大変な仕事なのに、なかなか正職員にはしてくれない。最初は非常勤職員から始まります。非常勤職員って時給いくらかご存知ですか。

私の場合、時給は850円でした。850円って、スーパーでレジ打っているのと同じですよね。引っ掻かれ殴られて文句も言えない仕事なのに、それでもこの仕事がしたいといって、いったい人が集まるものでしょうか。

こんなことばかり言っていると、本当に真面目にやっている施設が怒り出しますね。中にはいいところもあります。気分のいい特養もあると思えば、私の行ってたようなところもある。

ですから、「特養老人ホームとは全国共通のものであって、どこも変わらないのだ」というような認識があるかも知れないけれども、実際はひとつひとつの施設によって千差万別。天国はどこにも無いかもしれませんが、本当に地獄のようなところがあります。だから、皆さん、「特養ならほぼ同じだ」、「入れるところに入ればいいのだ」というようなお考えはお捨てになっていただきたい。できるだけきちんと選ぶことをお勧めしたいと思います。

次に、……私は特養を辞めてからここ2年ぐらい、有料老人ホームの職員や関係者の方とお話をすることをずっと続けてきました。そこで今、巷で問題になっているのは、有料老人ホームを選ぶならどこにするかということなのですね。「おれは年をとった。とはいえ家族の世話になるのは嫌だ。だから、どこかの有料老人ホームに入って、悠々自適に暮らそう」、そんなふうに思っている方が随分いらっしゃる。

そこで、有料老人ホームの選び方ですが、私の見方は普通とは違って、介護職員の経験があるだけ、表面だけではなくて、ある程度は中で何が行われているかが分かります。あるいは、ヘルパー時代の友達が有料老人ホームにもたくさんいますから、「ここではどんな介護をやってくれるの」と話をしたり、聞いたりして内部情報が集まってきます。そんなことも含めて、そのうち『有料老人ホームの選び方』というような本を出すつもりでおります。

【講師紹介】

村岡　清明氏　小説家
昭和44年卒　高21回
筆名　本岡　類（もとおか　るい）
早稲田大学卒業後、講談社に入社。
昭和56年『歪んだ駒跡』で第20回「オール読物推理小説新人賞」を受賞する。昭和58年に講談社を退社し、以降は文筆活動にいそしむ。近年は介護関連ノンフィクションにも進出し、『介護現場はなぜ辛いのか――特養老人ホームの終わらない日常』（新潮社）は大きな反響を呼んだ。

（編集部注……この記事は村岡氏の講演を再録したものですが、紙幅の関係で割愛した部分があります。）

同窓生より

野球部創部百周年

松戸　健（高2回卒）

同窓会報に原稿の依頼があったが、最近、文章を書く元気がなくなった。平成十四年三月、創部百周年記念号「九十九球史」を発刊した。OB会長であった私が「発刊によせて」を書いた。それを転記し、野球部の歴史を若干、紹介することにしたい。

明治三十三年（一九〇〇年）の春、成東中学校は開校した。その二年後の明治三十五年の二学期に第一回生佐久間伝一氏が佐倉中から転入学して野球部が創部されたと伝えられている。その後、明治、大正、昭和、平成と一世紀に渡って野球部活動は続いている。だが、昭和十八年、十九年、二十年は太平洋戦争のため休部せざるをえなかった。

今、ここに創部百周年記念誌の発刊をみることは欣快である。この百年の間、野球部卒業生は八百五十名になんなんとし、野球界のみならず社会に数多くの俊英を送り出している。

顧みるに、昭和十六年にOBの大野利夫先生の指導で夏の県大会に準優勝（全国大会は中止）し、明治神宮大会に県代表として出場したのが本校野球部の県代表になった最初であった。

昭和二十年秋、終戦後で世の中が混沌としていた時、内山正平先生、大野先生の努力と指導により、戦後の野球部活動が他校に先駆けて復活した。

戦前から戦後にかけて大野先生の献身的な指導は、本校野球部の礎となっていると言っても過言ではあるまい。

その後、大野先生の薫陶を受けた良き歴代指導者に伝統が受け継がれ、常に強豪として話題にあがるチームが作られている。

昭和三十四年、夏の千葉県大会初優勝、県代表として東関東に出場、続いて、昭和三十九年、昭和四十二年、昭和四十五年、昭和四十六年と県代表として東関東大会に駒を進めたが、今一歩のところで甲子園球場での全国大会に出場できず、「悲運の成東」とまで言われた。この間、昭和四十一年、昭和四十七年に春季千葉県大会に優勝している。そして昭和四十七年には、春の関東大会で準優勝も成している。

その後、昭和五十五年には、夏の千葉県大会決勝まで進んだが習志野高校の壁が破れなかった。

平成元年夏、田中和行部長、木下忠一監督の下、押尾健一投手などの活躍により、成田、銚子商、習志野、拓大紅陵と県下の強豪を降し、野球部OB六百余名の悲願であった全国大会に出場、憧れの甲子園球場に駒を進めた。

折しも、私は千葉県高野連会長であり、母校野球部後輩選手諸君に深紅の優勝旗と優勝メダルを手渡したことは、この上ない喜びであった。

甲子園では、一回戦智弁和歌山を降し、「水か空かの海近く…」の格調高い校歌を歌い聞くことができた。

二回戦は福岡大大濠に四対〇で敗れた。

以来二十数年、再び全国大会、甲子園球場への出場を願って止まない。

「九十九球史」は、編集委員長内山敬氏、野球部長二階堂克行氏（いずれもOB）を中心とした編集委員諸氏の努力により完成したものである。原稿を執筆してくれた皆さん同様、厚くお礼を申し上げる次第である。

平成２年９月　千葉県高校野球大会の開会式であいさつする、松戸健高野連会長

本誌は永年の記録にとどまらず、白球に青春を託したOB諸氏のあつい思い出が多く掲載され、過ぎ去った日々が甦るものである。

末筆になったが、願わくば、成東高校野球部が、よき伝統を引き継ぎ、高校野球の本道を堅持し、益々発展するよう望んで発刊の挨拶とする。

昭和30年卒G組

戸村政雄（高7回卒）

東日本大震災のあった今年の春から夏にかけての日々は、戦後の困難な時代に学業に勤しんだ頃から、今に至る50数年余の時代を生きた私たちの来し方を改めて想い起こすことになった。東日本大震災の影響で、卒業式を中止した立教新座中学校・高等学校校長の「時に海を見よ」と題した渡辺憲司氏の卒業生向けの校長メッセージと、宮城県気仙沼市階上（はしかみ）中学校の体育館に避難していた地域の方々の見ている前の中学卒業式で、卒業生代表の梶原裕太君の、何度も歯を食いしばり、涙をこらえながら、天を仰ぎながら、一つ一つの言葉を絞り出して、『・・・、それでも、私たちは天を恨まず、助け合って生きていこうと思います。それが私たちの使命だからです。』の答辞が評判です。

成東卒業後の青春時代は、かなり薄れた記憶のかなたになりましたが、テレビやラジオ、新聞やインターネット等で接するいろいろな情報の中で、少年時代から青年時代への端境期である15歳から18歳の高校時代と重なるメッセージが、強く心に響いてくる。

全国総合高校文化祭での構成劇「ふくしまからのメッセージ」で、県内の高校生１００人が実行委員会にメッセージを寄せた中から福島南高３年生の佐藤季さんの投稿を、演出家の野崎美子さんがフィナーレのセリフに入れ、感動的な開会式となったと評判を呼び、千葉県出身の野田総理大臣の就任後の所信表明演説でも、『福島に生まれて、福島で育って、福島で働く、福島で結婚して、福島で子供を生んで、福島で子供を育てる。福島で孫を見て、福島でひ孫を見て、福島で最期を過ごす。』のセリフが全文紹介され大変感動的に聞けた。

これらのいずれのメッセージの中でも仲間が存在する。私の場合は、成東高校昭和30年卒G組にその仲間が存在する。会社の関係で、30年ほど前に長い間住んでいた倉敷市から転勤で今の幸手市に移ってきたころ、小中高と同じ学校で過ごし昭和30年卒G組のクラスメートでもある友人から誘いがあり、東京圏に住んでいるクラスメート4人でゴルフを楽しんだ。それ以来、少しずつ級友が加わり、年2回、春と秋に成高G組コンペが続いてきた。ピーク時は、4組16人もの集まりになった。さすが、70歳半ばになり、一組4人の編成も困難になり中断したままになっている。30年近くも続いた要因に、高校時代3年をG組で過ごした絆が大きいと思っている。冒頭の3つの事例でも仲間の存在を謳っている。少年から青年に変わるこの時期の高校生活は、他の年代の友人と違う絆を結ぶことになっていたように思う。

高校時代は、人間の一生で、肉体的にも、知能的にも最も成長細胞が活性的な期間のようである。多くの列車通学組は、駅から約30分程の徒歩通学、自転車組は、九十九里平野部及び丘陵部からの約40分～60分、地元の徒歩組も約40分～60分で、健全な体力づくりになっていたと思う。教室は、木造の鎧下見の外壁（写真）で、床は木張りで、掃除が日課の教室であった。

多くの企業で、5Sを、マネージメント本流に据えられているが、毎日の協同作業も今思うと絆の養成になっていたようである。G組には、比較的長男が多かったように思う。東金の新千葉カントリー倶楽部の会員が複数いたことで、常に世話役が存在していたこともあるが、それ以上に、進路を見つけるこの年頃の日々の仲間と過ごした時間が重要であったように思える。進路を決め、それぞれの社会で切磋琢磨していた青壮年時代から、峠を越えかかる時期からのこの30のゴルフを通じてではあるが、心を話せる仲間を持っているという思いが心強かった。

昭和30年３月卒業間近いＧ組教室窓外で

高校生活と今

海上なぎさ（平11年卒）

私はいまオーボエというオーケストラなどで使用する楽器を演奏する仕事をしています。音楽大学に進学し、卒業後は各地での演奏活動や、出身大学での指導、そして全国の吹奏楽部やオーケストラ部のオーボエ指導をしています。成東高校のオーボエの部員さんも指導させていただいています。

私が成東高校を受験しようと思ったのは、中学2年生の6月に聴いた吹奏楽部の定期演奏会がきっかけでした。いくつもある高校の中でも成東高校の演奏には自由さや楽しさがたくさん詰まっていて、吹奏楽部だけでなく、そこに通う生徒のみなさんへの興味もむくむくと湧いてきて、「絶対成高に行きたい！」と、家に帰ってカバンもおろさずに両親に言ったことを憶えています。

希望どおり吹奏楽部に入部して一番びっくりしたのは、部員が自分たちで運営をする部分が多くあったことでした。部長や学生の指揮者を中心に次に取り組む曲を決めたり、練習の予定を組んだりしていました。当たり前のように、リーダーシップを取る人、サポートする人、割り当てられた仕事をちゃんと遂行する人、という図式が出来上がっていました。

成東高校の生徒の特長は自分で考え行動して、道を切り開いていくことの出来る人が多

保護者の思いを大切に

校長
武居元三

同窓会の会員の皆様には、日ごろ本校の教育に御理解をいただき、ありがとうございます。

生徒たちは毎日真剣な態度で学んでおります。保護者の方々の協力や地域社会の人々の理解が、成東高校を支えています。創立満百十一年目を迎えた本校は、今までどおり、御家庭や地域社会の方々と手を携え、力強く歩んでいきます。今後も御支援御協力を賜りますようお願いいたします。

さて、大阪大学大学院の小野田正利教授が「内外教育」に連載している『普通の教師が生きる学校』「モンスター・ペアレント論を超えて」の第三七回(平成二三年四月二二日発行分)に、「父ちゃんの愛情弁当」と題する文章が掲載され、感銘を受けました。その文章の概要を会員の皆様にお伝えします。

小野田氏は、「教師は理屈で説明するが、保護者は思いで行動する。そこにはズレが生まれやすい」と言っています。

「父ちゃんの愛情弁当」という文章は、氏の主宰する研究会のメンバー山岡賢三さんの体験したエピソード、山岡さんが大阪の公立中学校の教頭だった時のできごとに取材したものです。大きく三つのまとまりで構成され、それぞれの見出しは、次のとおりです。

(1) 教師は理屈、保護者は思い
(2) プリントなんか見てへん
(3) 実母との思い出の弁当

話の中で、中学校の給食のことが出てきますが、大阪の公立中学校の完全給食実施率は、わずかに八%(全国のそれは、八二%)であることが前提となっているとのことです。大阪では、中学生のほとんどが弁当持参なのです。山岡さんが語る弁当にまつわる話は、次のとおりです。

(1) 教師は理屈、保護者は思い

A君の父親は、毎日昼休みに校門に来てA君に弁当を渡しに来る。その日もA君は校門前で父親を待っていた。父親が到着したとき、校庭ではもう、大勢の生徒たちが遊んでいた。「何でみんなもう遊んでんねん?」「きょうは、短縮や。あの子らは、もう食べ終わってんねん。」

その日は短縮授業で、昼食時間が二〇分早まっていたのだった。昼ごはんのお預けを食らった子どもを愛おしみ、授業短縮を教えてくれなかったとして、父親は職員室に怒鳴り込んだ。友達と一緒に弁当を食べられないことで、いじめに遭ったらどうしてくれるというのも、父親の思いであった。

担任は、あらかじめ行事予定表を配布してあるから分かっていたはず、食事が二〇分遅れたくらいで文句を言われるのは理解できないと主張、話し合いは平行線のままだった。父親は怒ったまま仕事場に戻った。

その苦情は教頭の私(山岡さん。以下、「私」とは山岡教頭のこと)に引き継がれた。

(2) プリントなんか見てへん

私は、夜に家庭訪問をして、A君の父親と話をした。父親は次のように語った。

最近離婚したので、子どもが不憫でならない。仕事が忙しくて子どもを構ってやれない。せめて弁当だけはと決心して自分のものと二つ作っている。弁当を子どもに持たせてもよいが、温かいものを食べさせたいので、職場の電子レンジで温めてから届けている。

早く帰宅できないから子どもと話す機会もない、学校の行事予定表も目を通す暇がなかった。

父親に対して私は思わず、「お父ちゃん偉いな。俺、お父ちゃんの話を聞いて感動した」と言った。A君の父親も、行事予定表を確認しなかったこと、担任教師に無茶なことを言ってしまったことを詫びた。

父親の思いを受け止めて、担任にしっかり伝えると約束して帰った私は、あくる日、担任に説明した。担任は、家庭の事情を仄聞していながら父親の気持ちを把握できていなかったことを反省していた。

その後、担任は、弁当を届けに来る父親を校門に出迎え、「御苦労さま。」と声を掛けたり、「こんな献立、いかがでしょう。」とレシピを渡したり、A君の父親と良好な関係を築いている。

(3) 実母との思い出の弁当

A君の父親の弁当への思い入れには、弁当を皆と一緒に食べさせてやれなかった悔しさもあったが、父親自身がその実母との間で、弁当をめぐる次のようなできごともあったことによるのだという。

この父親が中学生の時、母親は喫茶店を営んでいた。店は盛況、モーニングサービスやランチの提供などに大忙しで、息子に弁当を作ってやる時間がなく、ちゃぶ台の上に数百円の現金が置いてあったのだった。

友達が弁当を持ってくるのがうらやましく、あるとき「おれも弁当がええなあ。」とつぶやいたところ、母親は弁当を毎日作ってくれるようになった。ところが、子どもというのは勝手なもので、ある時、弁当を持っていくのが嫌になって、その日はわざと母親手作りの弁当を学校に持っていかなかった。

昼休みの校内放送で「玄関の窓口に弁当が置いてあった。心当たりの者は、受け取りに来るように」と流れた時、「うちのオカンや」と直感したという。子どもが弁当を忘れていったと思って、昼時の一番忙しいときに、時間を割いて届けに来てくれたのだ。だから名前も告げずに店に戻ったのだ。

こうしたこともあって、弁当は、実母と自分、自分と息子をつなぐ大切なものなのだと、A君の父親は語ってくれた。

その後、この父親は学校に協力、PTA役員を買って出ただけでなく、その学校の教職員有志と父親たちで結成している「おやじバンド」のメンバーにもなり、交流を深めていくことになったという。

以上が、話の概要です。

成東高校は、生徒の活躍と教職員の熱意と保護者の協力で、ますます発展しています。今後も、生徒・教職員・保護者の思いを大切にしていきたいと思っております。

また、同窓生をはじめとする地域社会の皆さんの支援が大きな力となっています。同窓会員の皆様には、これからも御支援をいただければ幸いです。

ドナルド・キーン先生のこと

鵜澤良臣(旧職員)

大正から昭和にかけてアメリカに住み、最後まで教壇に立ち続けて日本学の確立に奔走した角田柳作。この角田を唯一の「SENSEI」として崇敬し、日本の文学や思想史を研究してきたドナルド・キーン先生が日本に帰化永住されるという。日本人の心性をこよなく愛してこられた先生にとって、これは自然なことだと私には思える。

キーン先生はコロンビア大学で日本文学・日本思想史を学ぶたった一人の受講生として角田と出会うのだが、受講生がただ一人であることを理由に辞退すると、角田は「一人でも十分です」と言って、毎時間手抜きのない重厚な講義を行ったと、後年、キーン先生は記している。

私はキーン先生をお招きした成東高校創立百周年記念講演のことを懐かしく思い出す。その一つは、講演を依頼するために、先生のマンションを訪ねた時のこと。先生は年齢を理由に「来年のことは…」と述べておられたのだが、お会いしてお話を聴いて頂けることになって、百周年記念事業校内委員会から行方正一教諭と私の二人がその役を担うことになった。その折私が梨を、行方教諭は自ら収穫したばかりの新米をバッグに詰めて上京したのだが、それは何度も持ち手を替えなければならないほどの重い手土産だった。成東高校の沿革と生徒の様子をお伝えした後、愛する生徒達に私達ができる最高の贈り物は先生のお話を聴かせることであることを申し上げると、ようやく承諾して下さった。私達は「次の世紀を生きる生徒達に、生きる指針になるようなお話を頂戴したい」とお願いして辞去したのだが、帰路、駒込駅に向かう途中、電話ボックスに跳び込んだ行方教諭が今や遅しと連絡を待つ長谷川寛教頭に得意然として電話をかけたのだった。

もう一つは、記念講演前日、先生を大網駅に迎えて、東金のエストーレホテルで夕食を御一緒した時のこと。先生はその頃、小田実の小説『玉砕』を英訳されていたのだったが、「『玉砕』を翻訳されたのは、先生にとってアッツ島のことに重なるからですか」と私が尋ねると、先生は「その通りです」と答えられた。そして、あの小説の舞台はアッツ島ではなく別の島なのだが史実にきわめて近いものであることと、翻訳した原稿をニューヨークの出版社に渡した時、出版社は嫌がった理由は、『玉砕』の中で、小田が米兵を鬼か何かのように描いているのを、先生は何の手心をも加えずに英訳したからだ。「ああいう思いを持っていた日本兵はいたのです。それは知っておかなければ…」と先生は仰る。

ある国の言語で書かれたものを他の言語に直そうとする時、言葉の選択というのは難しいのだろうなと思う。言葉には、主体の明らかな心情が籠められていて、その心情を伝えられなければ本当の意味で翻訳したことにはならないであろうから。そういう意味で、キーン先生の姿勢は実に謙虚で真摯である。

私の目には、上州赤城の人で、福島と仙台で教鞭を執り、渡米後情熱をもって日本文化を伝えた角田柳作とその教え子のキーン先生とが、今、二重写しになって見えている。

進路・生徒状況報告

進路指導主事　鑓田正之

成東高校が「進学指導重点校」に指定されてから2年目の今年3月、卒業生がまた本校を巣立ってゆきました。

私たち職員の中では、例年に比し、進学状況は厳しくなるのではと思われていたこの学年ですが、蓋を開けてみると、別表にあるような、見事な成果が得られました。

これはひとえに生徒たちの、最後まで諦めない姿勢が生んだものですが、それを支えてくださった保護者の皆様には、本当に頭が下がる思いがいたします。

さて、成東高校に赴任して11年、進路指導主事の立場から成東高校を見るようになって3年目の私ですが、この学校もつくづく変化してきたものだとの感を抱きます。

制服が4年前に制定され、極端に短いスカートの生徒は、少なくとも校内には見られなくなり、特別指導の数も激減、休日でも「当然のこと」のように進学課外が行われ、多くの生徒が参加する。それでいて部活動も熱心に行われている学校、それが現在の成東高校です。

『おっらの頃には、進路指導なんて、あんもねかったさ。』『生徒指導ってのはあんだかいよ?』などと同窓生の方々は冗談交じりに仰られますが、まさに隔世の感を抱かせられるような成東高校の変貌ぶりです。

ただし、こう書くと勉強ばかりで、窮屈でつまらない学校へと成東も変わってしまったのかと勘違いされる向きもあるかもしれませんが、成東高校は、あくまでも成東高校です。連綿と受け継がれてきた先輩方の良き伝統に基づく生徒たちの本質は、なんら変わりがありません。

そこで、現1年生が7月に書いた文章を紹介させていただきます。生徒の文書ですので若干の手直しをしてありますが、同窓生の皆さんが過ごされた高校時代と、案外、変わってはいないことを示しているのではないでしょうか。

「質実剛健」の気概と「文武両道」の理念に基づいた本校独自の「進学指導重点校」を目指して、成東高校は努力を継続していきます。卒業生の皆様のご協力を、これからもよろしくお願いいたします。

●Aさん

他の学校の友達と話していたりすると、成東ってやっぱり勉強に力を入れてるなぁ、と感じます。友達は中学の時とそこまで変わらないと言っていましたが、私はすごく変わりました。中学校の時は受験の時以外、ほとんどというか、全くと言っていいほど家で勉強したことがありませんでした。けれど、高校に入ってからは、やってもやっても終わらなくて、本当に大変です。でも、入学して4か月もたつと、クラスの友達や部活の先輩などとも仲良くなれて、とても楽しいです。

それと、私が成東高校に来て感動（?）したことは、先生方も先輩も友達もみんな「性格美人」なところです！　私の中学はかなり荒れていて、とても大変で、「普通」のように、いじめもありました。でも成東に来てからはそんなことが全くなく、安心というか、楽しく学校に来れています。成東高校に入学するのは小学校の時から目標にしていたので、これからも頑張って、部活と勉強の両立を果たしていきたいと思います。

●Bさん

今、私が考えていることは、成高に入って良かったな、ということです。入学したばかりの頃は、勉強についていけるかなとか、友達ができるかなとか、たくさん不安なことがありました。でも、成高には、質問すれば優しく教えてくれる先生方や、面白くて優しい人がたくさんいることを、この4か月で知りました。中学の時に、『高校は進度が速くて大変だよ』と聞かされていましたが、全くその通りで、少しボケーっとしていると、わからなくなってしまいます。しかし、そんな大変な環境にいるからこそ、授業や予習・復習の大切さを実感できるのだと思います。

また部活も、変に厳しいこともなく、気立ての良い先輩方と楽しくやれています。このように、今の成高での高校生活は十分すぎるほど充実しており、これは成高に入らなければ得られなかったと思います。受験の時背伸びした自分は、正しかったような気がします。

●Cさん

私が成東高校で4か月過ごしつつある今、考えることは、まず、勉強が大変だということです。授業は予習・復習をしてきたことを前提に進んでしまうので、中学時代、予習とか全然やらなかった私にとって、「地獄」のようです。家で勉強しようと思っても、布団の誘惑に負けていつのまにか寝てしまい、気付くと朝になってます。実は、昨日も夜9時に寝てしまい、「ヤバい！」と思って起きたら12時で、そこから勉強しました。私は部活以外に、毎日、競泳目的でスイミングスクールにも通っているので、まったく勉強できません。運動部とか忙しい部活に入っていて頭がいい人は、本当にすごいなと思います。

あと、もうひとつ感じたことは、高校は遊ぶところではないということです。教育実習生の先生が話していたのですが、高校で勉強を頑張れば、大学で遊べるよと聞いてビックリしました。今まで、高校は中学よりも厳しくなく、土日とかも遊べると思っていたら、真逆でした。朝テスト勉強とかで土日がつぶれると嫌になります。だけど私には、大学に進学して自分のなりたい職業に就くという夢があるので、あきらめずに頑張っていこうと思います！

平成23年度 大学入試結果（合格者数）

国立大学

大学名	新卒	旧卒
北海道大		1
弘前大		1
東北大	1	
茨城大	4	
宇都宮大	1	
群馬大		1
埼玉大		1
千葉大	11	6
東京医歯大	1	
東京外大		1
東京工業大	1	
東京農工大	1	
新潟大	1	2
富山大	1	
信州大	2	
静岡大	2	
神戸大	1	
琉球大	1	
国立大計	28	13

公立大学

大学名	新卒	旧卒
群馬県立女子大	1	
高崎経大	2	
埼玉県立大	1	1
千葉保健医療大	6	
首都大東京	1	
新潟県立大	1	
山梨県立大	1	
都留文科大		2
静岡県立大	1	
名古屋市立大	1	
公立大計	15	3

私立大学（抜粋）

大学名	新卒	旧卒
青山学院大	5	1
学習院大	2	4
学習院女子大	1	
北里大	2	2
慶応大		2
国学院大	4	2
国際医療福祉大	1	
駒澤大	9	5
芝浦工大	2	1
順天堂大	2	
成蹊大	4	4
成城大	2	3
専修大	5	3
中央大	6	10
東京農大	7	
東京理大	7	9
東邦大	12	3
東洋大	19	9
獨協大	1	4
日本大	33	20
日本女子大	2	
日本体育大	5	
文教大	2	2
法政大	18	10
星薬大		2
明治大	7	5
明治学院大	6	
酪農学園大		1
立教大	4	1
立命館大	1	3
龍谷大		1
早稲田大	3	4
その他	175	31
私立大計	347	142

事務局より

○創刊号の最終ページに「卒業年一覧および資料保管状況一覧」を掲載いたしましたところ、高13回卒の石橋武さんより、「手元に昭和36年の卒業アルバムがある。学校に保管されてないのなら、寄贈したい」との有り難い連絡をいただきました。

○後日、ご自身でわざわざ学校までご持参くださったのは、くだんの卒業アルバムのみならず、当時の生徒手帳とそして氏名がくっきりと墨書された木札です。校章の焼印入り。

○入学許可の際に新入生に配られたもので、今でも折々は古い屋敷の門柱などに打ち付けてあるのが見られるとのこと。これも晴れて九十九ケ丘の生徒となったことを喜ぶ、旧制中学以来の誇り高い一品でしょう。

○さて、昨年は母校の創立百十周年を契機として、この会報を定期的に発行することといたしました。そして継続的に発行すること、また同窓会活動をより充実させるためにも、同窓会活動協力金へのご協力をお願い申し上げた次第です。

○その結果は、おかげさまで、なんと1、876名の同窓生の皆様より4、082、000円（手数料差引前）もの協力金をお寄せいただき、会報発行の経費に充てることができました。誠にありがとうございました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

○今後は同窓会各支部、また職域同窓会などの活動状況や、同級会、クラス会などについても記事として掲載したいと思いますので、どのような集まりがあったのかなど、簡単でも結構ですから事務局までお知らせください。その際、写真があると記事が引き立ちますので、一枚お貸しいただければ幸いです。

卒業年一覧 及び 資料保管状況一覧（平成23年11月1日現在）

卒業年		回 旧制中学	回 併設中学	保管状況 卒業アルバム
1900	明治33			
1901	明治34			
1902	明治35			
1903	明治36			
1904	明治37			
1905	明治38	1		×
1906	明治39	2		×
1907	明治40	3		×
1908	明治41	4		×
1909	明治42	5		×
1910	明治43	6		×
1911	明治44	7		×
1912	明治45	8		×
1913	大正2	9		×
1914	大正3	10		×
1915	大正4	11		×
1916	大正5	12		×
1917	大正6	13		×
1918	大正7	14		×
1919	大正8	15		×
1920	大正9	16		×
1921	大正10	17		×
1922	大正11	18		×
1923	大正12	19		×
1924	大正13	20		×
1925	大正14	21		×
1926	大正15	22		△
1927	昭和2	23		△
1928	昭和3	24		×
1929	昭和4	25		○
1930	昭和5	26		△
1931	昭和6	27		×
1932	昭和7	28		△
1933	昭和8	29		△
1934	昭和9	30		×
1935	昭和10	31		×
1936	昭和11	32		×
1937	昭和12	33		△
1938	昭和13	34		△
1939	昭和14	35		×
1940	昭和15	36		×
1941	昭和16	37		×
1942	昭和17	38		×
1943	昭和18	39		×
1944	昭和19	40		×
1945	昭和20	41		×
〃	〃	42		×
1946	昭和21	43		×
1947	昭和22	44		×
1948	昭和23	45	1	×

「卒業アルバム」欄の記号について

○	所蔵
②	所蔵（組単位で2種類存在） 3年C組・組表記無し
△	所蔵（欠落部分有）
×	未所蔵

「PTAだより」「九陵自治」欄の記号について

～号	所蔵
～号	未所蔵

〈連絡先〉
千葉県立成東高等学校 同窓会事務局
〒289-1326 千葉県山武市成東3596
電話：0475-82-3171
FAX：0475-82-0144

PTAだよりの名称の変遷

昭和40～昭和50年	成高PTAだより	1~15号
昭和51～昭和54年	成東高PTAだより	1~11号
昭和55～平成 4年	成高PTAだより	27~38号
平成 5～平成15年	成東高PTAだより	39~58号
平成15年～現在	つくも	59~74号

卒業年		回 旧制中学	回 併設中学	回 高校 定時	回 高校 分校	回 高校 普通科	回 高校 理数科	保管状況 卒業アルバム	保管状況 PTAだより			保管状況 九陵自治				
1949	昭和24	46	2			1		×				1号	2号	3号	4号	5号
1950	昭和25					2		×				6号	7号	8号	9号	10号
												11号	12号			
1951	昭和26					3		×				13号	14号	15号	16号	17号
												18号	19号	20号		
1952	昭和27			1		4		×				21号	22号	23号	24号	
1953	昭和28			2		5		×				25号	26号			
1954	昭和29			3		6		×				27号	28号	29号	30号	31号
												32号				
1955	昭和30			4	1	7		②				33号	34号			
1956	昭和31			5	2	8		×				35号	36号	37号		
1957	昭和32			6	3	9		×				38号	39号	40号	号外	
1958	昭和33			7	4	10		×				41号	42号	43号	44号	
1959	昭和34			8	5	11		○				45号	46号	47号		
1960	昭和35				6	12		×				48号	49号	50号		
1961	昭和36				7	13		○				51号	52号	53号		
1962	昭和37				8	14		×				54号	55号	56号	57号	
1963	昭和38				9	15		○				58号	59号			
1964	昭和39				10	16		○				60号	61号	62号		
1965	昭和40				11	17		△	1号			63号	64号	65号		
1966	昭和41					18		○	2号			66号	67号	68号		
1967	昭和42					19		○	3号	4号		69号	70号	71号		
1968	昭和43					20		○	5号	6号	7号	72号	73号	74号		
1969	昭和44					21		△	8号			校舎落成記念号	75号	76号	77号	
1970	昭和45					22		△	9号			78号	79号	80号		
1971	昭和46					23		○	10号	11号		81号	70周年式典特集			82号
1972	昭和47					24		○	12号			83号	84号			
1973	昭和48					25		○	13号			85号				
1974	昭和49					26	1	○	14号							
1975	昭和50					27	2	○	15号							
1976	昭和51					28	3	×	1号	2号	3号					
1977	昭和52					29	4	○	4号	5号	6号					
1978	昭和53					30	5	○	7号	8号	9号					
1979	昭和54					31	6	○	10号	11号						
1980	昭和55					32	7	○	27号							
1981	昭和56					33	8	○								
1982	昭和57					34	9	○	28号							
1983	昭和58					35	10	○	29号							
1984	昭和59					36	11	○	30号							
1985	昭和60					37	12	○	31号							
1986	昭和61					38	13	○	32号							
1987	昭和62					39	14	○	33号							
1988	昭和63					40	15	○	34号							
1989	平成1					41	16	○	35号			86号	87号	88号		
1990	平成2					42	17	○	36号			89号	90号（90周年記念号）			
1991	平成3					43	18	○	37号			91号	92号			
1992	平成4					44	19	○	38号			93号	94号			
1993	平成5					45	20	○	39号			95号	96号	97号		
1994	平成6					46	21	○	40号	41号		98号	99号	100号		
1995	平成7					47	22	○	42号	43号		101号	102号	103号		
1996	平成8					48	23	○	44号	45号		104号	105号	106号		
1997	平成9					49	24	○	46号	47号		107号	108号	109号		
1998	平成10					50	25	○	48号	49号		110号	111号	112号		
1999	平成11					51	26	○	50号	51号		113号	114号	115号		
2000	平成12					52	27	○	52号	53号		116号	117号	118号		
2001	平成13					53	28	○	54号	55号		119号	120号	121号		
2002	平成14					54	29	○	56号	57号		122号	123号	124号		
2003	平成15					55	30	○	58号	59号		125号	126号	127号		
2004	平成16					56	31	○	60号	61号		128号	129号	130号		
2005	平成17					57	32	○	62号	63号		131号	132号	133号		
2006	平成18					58	33	○	64号	65号		134号	135号	136号		
2007	平成19					59	34	○	66号	67号		137号	138号	139号		
2008	平成20					60	35	○	68号	69号		140号	141号	142号		
2009	平成21					61	36	○	70号	71号		143号	144号	145号		
2010	平成22					62	37	○	72号	73号		146号	147号	148号		
2011	平成23					63	38	○	74号			149号				

※同窓生の皆様へ、資料保管への御協力のお願いです。

上表の通り、本校保管の『卒業アルバム』には欠落や欠損があります。また、『成東高PTAだより』の10・11号と『九陵自治』66号も、保存資料の欠番となっております。該当資料をお持ちの方に資料補完の御協力を願えましたら幸いです。同窓会事務局まで御一報下さい。

また、『卒業アルバム』は昭和30年頃には学年単位でなくクラス単位で作られていたのか？昭和55年からの『成高PTAだより』はなぜ27号からスタートしているのか？など、資料についての情報をお持ちの方は、同窓会事務局まで情報をお寄せいただけたらと思います。よろしく御協力をお願い申し上げます。